

ブラキムラとめぐる！仙台城下町ボヤージュ 【2024年9月3日放送分・鉄砲町／明神横丁】

毎月第1火曜日に放送しています。歴史家で街歩きの達人・ブラキムラこと木村浩二さんと、旧城下町に88本ある石柱＝辻標から歴史の痕跡を探る旅です。街歩きのお供には、仙台市役所1階の市政情報センターなどで販売中の冊子、その名もズバリ「辻標」が便利です。88本ある辻標の場所や周辺の歴史が、写真とともに分かりやすく解説されています。

- 今回は「アンパンマンミュージアム」の南西にある「鉄砲町西」交差点から街歩きをスタート。「東番丁に行く！」旅ですが、東九番丁という辻標がないため、鉄砲町を歩いて周辺の辻標と歴史のコンセキをご紹介します。
- その鉄砲町を東に歩くと「鉄砲町」という交差点に着きます。直交する南北の通りは、東九番丁の延長です。「東番丁」は今年の旅のテーマですので、ここは寄り道して南へ…。二十人町通も越えて南下すると、榴岡小学校の近くに「榴岡北3」という交差点があります。ここの歩道に、仙石線 東九番丁踏切跡(写真)という敷石が埋め込まれています。JR仙石線は、仙台と陸前原ノ町までの区間が地下を走っていますが、2000年までは地上を走っていました。沿線には踏切や軌道など、当時のコンセキがあちこちに残っています。訪ね歩くのは、鉄道ファンならずとも楽しいものです。
- そもそも鉄砲町という地名は、鉄砲を扱う足軽達が配置されたことから付いたものです。二十人町の北側をほぼ並行して走る東西の通りで、元寺小路に近い西側の部分が藩政時代の初期に割り出され、17世紀後半の寛文期までに東の方に延びて行ったと考えられます。

- 鉄砲町通に戻って、今月の辻標とご対面。コーナー49本目の辻標は「鉄砲町／明神横丁」と刻まれています。明神横丁とは、鉄砲町と南側の二十人町をつなぐ南北の短い通りのこと。今も「鉄砲町和光公園」に隣接して和光神社がありますが、ここは江戸時代、「和光明神」と呼ばれていました。城下町において、足軽達は出身地や職業別に配置されたため、それぞれの町にこうしたお社があり、結束の基盤となっていたと考えられます。



- 鉄砲町に関していえば、南の二十人町も含め塩釜方面から水揚げされた海産物をはじめとした物資が、名掛丁→新伝馬町→大町と移動して行く東西物流の基軸でもありました。原町には集積した物資を集める「御蔵場」がありましたし、城下の入口に近い位置に鉄砲足軽が配置された事は、防衛上も意味が大きかったと考えられます。そんな当時の街並みにも思いをはせながら、周辺を歩いてみて下さい。〈文・佐々木淳吾〉

